

2



\* 0001965000 \*

0001965-000

特242-7

太平洋に伸びる列強の耳目

高倉晁・著

東亜書房

昭和12

AAC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

特242

7

著

太平洋に伸びる

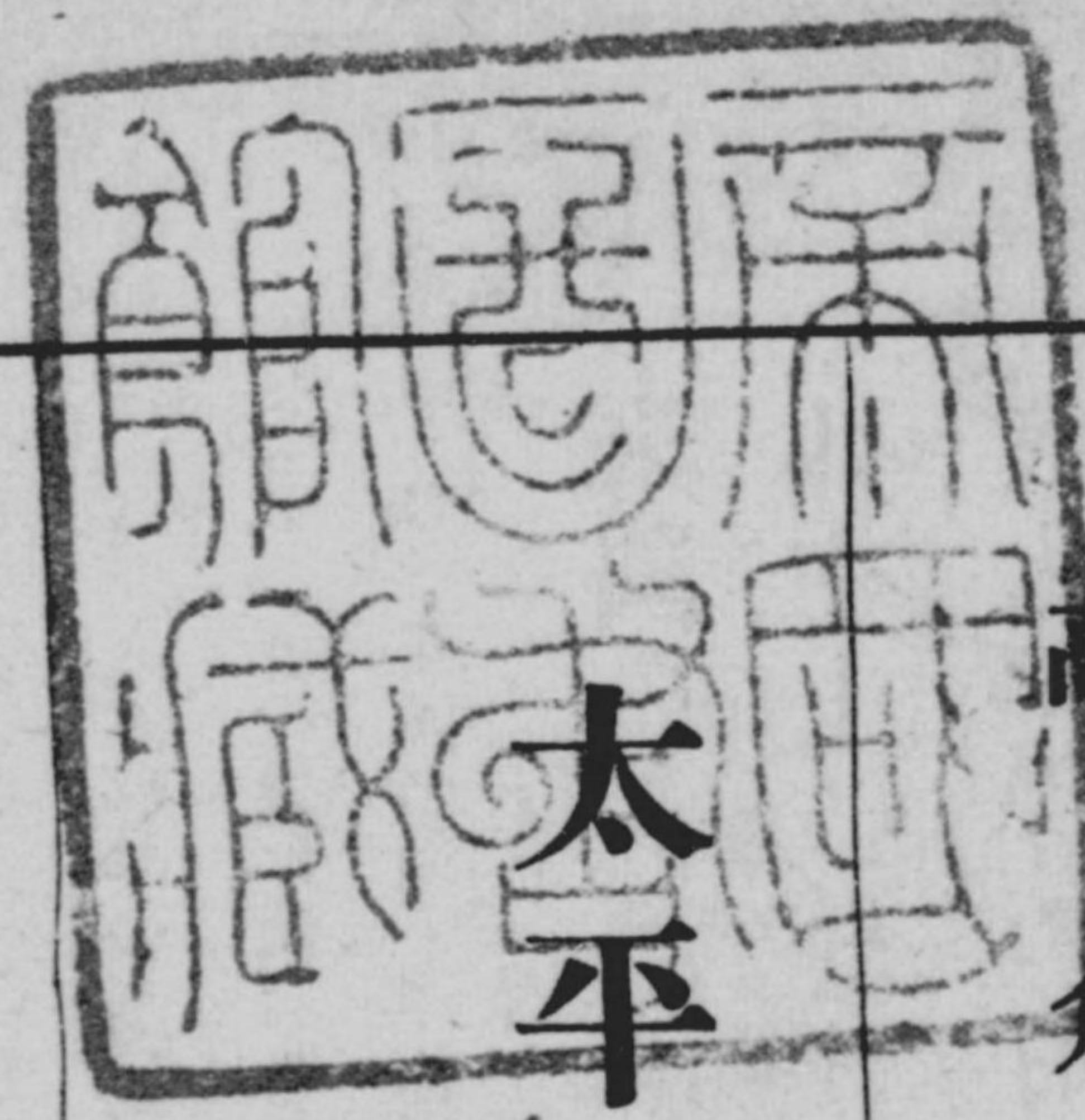
列強の耳目

十セシ



286

特242  
7



高倉 晁 著

太平洋に伸びる  
列強の耳目

東京 東亞書房





目次

大太平洋平の歴史……………(五)

A 自然科学の無限寶庫……………(五)

B 近代史に現はれた太平洋……………(一六)

C 露國の太平洋進出史……………(二六)

米國の經濟的能力……………(三)

外交上に於ける米國……………(三)

大太平洋の海と空……………(四〇)

A 米國の太平洋進出……………(四〇)

逆巻く太平洋

高倉 晁

大太平洋の歴史

A、自然科学の無限寶庫

バルボアがパナマのとある丘の上から太平洋を見下して、カスチラとアラブの名に於て、スペイン領海なりと宣言したとき、實は彼、眼下の海の眞の廣さに就いては何一つ知らなかつたのです。彼が壯烈な身振りで、スペイン領を宣言した海と云ふのが、世界最大の、しかもそれは地表全部を合せたものよりもつと大きく、強いて比較すれば、大西洋を二倍した廣さだつたのですから、知らぬ事とは云へ、全く沙汰の限りだと云へませう。

バルボアはこれを「南洋」と呼びましたが、七年後マゼランが命名した「太平洋」の名と較



べて見て、甲乙なくどちらもの外的を外れた言ひ分です。

マゼランは、彼の名がつく海峡の難航路を終へて静かな海へ無事に乗入れたとき、神に感謝を捧げてこれを『太平洋』と呼んだものです。しかしこの海は、何も南に片寄つてゐた譯でもなく、又とりわけ静かだつた譯でもありません。やがて初期の太平洋冒険者たちが味はつたであらう辛苦は、實に筆舌に盡せぬものがあつたものです。

x

太平洋は全くもの凄い廣さの海です。想像することも出来難い水の曠野です。それは赤道上で一〇〇〇〇哩の中、ベーリング海峡から南極圏までが略ぼまたこれと同じ長さです。またおそろしく深い洋であります。

海床のある場所では海面で五〇〇〇フアゾム(三〇〇〇〇呎)以上に達する程です。かうした異常な凹所はデープスと呼んで、すべて海圖のうへに測出されてゐるのです。

海底電線を敷設するとき、この種の深海は心配のたねとなつたものです。豫定以上の深さの爲、線が切れるやうなことはあるまいか？ しかも英領コロンビアのバムフィールドから、赤

道以北三五〇〇哩のアニング・アイランドにいたる海底電線は長さに於いて世界一です。

この様に何ごとによらず太平洋は世界最大級の海です。

x

太平洋には一定の海流及び風流があつて、大西洋のそれと符號してゐます。たとへば、太平洋にも『ドルドラム』があります。これは中央アメリカの海岸から西方に延びる一帯で、一年の大部分微風一つだに無い位です。

この太平洋の風流がよく分つて居なかつた頃のこと、マニラからメキシコのアカプルコに通ふスペインの寶船は、向風の貿易風をきらつて北向に斜航するうち、不意に、この無風帯に落込んでしまふことが屢々あつたものです。

アジアからの長い航海の果です。勿論食料も水も残り少なくなつてゐます。無風帯で徒に日食ふうちには屢々おそろしい不幸を見るのがお定りでした。

帆をだらりと垂れ、船體は暑熱と水でぼろ／＼に朽ち、一人残らず船員が死んだまゝの船がこの『ドルドラム』で發見される例は決して少くはなかつたのです。



夏至線、冬至線の太平洋の風流は、大體アジア方面に向つてゐます。けれどずつと南に下つて、強いて云へば南緯四〇度から五〇度の間では、不斷に強い風が、地球を一まはり吹きめぐつてゐるのです。ですから、若しケープ・ホーン路をとつて太平洋に入るときには、この風を眞向からうけて非常な難航です。しかし希望峰經由の太平洋入りは、それこそ疾風滿帆の、有名な『四十度強風』に乗つて字義通り滑るが如き航海です。

この緯度地帯を東方へ走つた舊時代のクリツパー船が、優に汽船と拮抗し得る記録を出してゐる位です。

一八五三年三月、米國クリツパー船『ソヴエレイン・オヴ・ザ・シース』は、ホノルルからニューヨークへの途上、南緯四九度を取つてゐた十二日間の平均速度が一日三一哩以上、もつと好條件の日は四一哩も走りました。これは時速にして一三哩乃至一七哩になります。大西洋上の優秀汽船が時速一〇ノットに達したのが一八四八年、五三年當時でやうやく一三ノット前後であつた。今日の大西洋上の最新優秀船レノクツス號は、一三萬馬力のタービン機關で二五ノットを出します。

x

しかし太平洋の眞骨頂は未來の太平洋であると云ひ得ませう。他日それは必ずや世界的諸事件の中心となるであらうことは、幾多先人達職者の口にせられた言葉であります。

パナマ運河の開通前までは、ある意味で太平洋は、兩アメリカ大陸の大障壁で以て、ヨーロッパから隔離された存在でした。ヨーロッパ諸國の重大な關心事たるべくは、餘りに遠く、餘りに隔絶してゐたのです。

將來の世界的事件は太平洋に集中されるだらうとは、既に七十五年前に、ある偉大な政治家の口を突いて出た豫言でありました。が、今尙具體的な實現を見ないとは云へ、一個の金言たるを失ひません。

何しろ文明の中心から隔絶してゐたため、太平洋の商船路は、最近までは、大西洋の發達したそれに較べたら、殆んど物の數ではありませんでした。ヤンキー捕鯨船と、五十年代及び六十年代のカリフォルニア・クリツパー船を除けば、太平洋貿易は殆んど無に等しかつたと云へます。しかしパナマ運河の開通は、太平洋上の交通と貿易に異常な發展を齎しました。

曾つてスエズ運河の開通がケープ・タウンやセント・ヘレナ島に與へた影響と同程度のもを、パナマ運河は南アメリカの諸港に及ぼしたものです。



西海岸行の船舶は、ケープ・ホーン迂回のまだるつこい、そして危険な航路を、もはや取らなくなつてしまひました。その結果、當座の間、南米諸共和国は、いはゞ世界から隔離された感じですが。然し遠からずそれも、人口が稠密になり、運賃が安價になるにつれ、ヨーロッパへの距離も、今日のエジプトほどにも縮まる日がくるでせう。

ロンドンやニューヨークの人々にはブント・アレナスやバルパライソは餘りにも遠い土地であり、ピトケールンなどは月世界にあるやうにさへ思へるでせう。昔の、和かな帆船時代には船は風を拾ひ乍ら、右に左に大洋ちうをほつつき廻つたのだから、洋上の孤島も千客萬來して、一年ちう捕鯨船や其他の船に見舞はれたものです。けれど蒸汽船ときたら一直線です。それは風も海流も黙殺して、まっすぐにつつ走るので。だから直線コース數百哩も離れて、たいては貿易上の用事もない米國の島などを訪れることは大變不經濟なことなのです。そんな風で、僻遠の島々は、ふたゝびアンソンやクツクの時代と同じやうな孤獨な状態に引戻されてしまひました。

x

### 風雲を孕む太平洋!!

事實太平洋の海床は不斷に地震や噴火等のために變化してゐるのです。大部分の島は火山性のもので。太平洋特有の珊瑚礁は、大自然の不思議さの一つに數へられてゐますが、一夜で生れる火山島の不思議さに較べたら物の數でもありません。

北太平洋を航行した船長の土産話に、よくこれが出て來ます。

海底地震が大きな震動と共にアツと思はれた瞬間、海面は沸騰するやうに揺れて、船の周圍は魚の死體で見る／＼うちにいつぱいになります。湧立つた海面からは大きな煙の雲が立上ると見る間に、いつぱいの泥とラヴァが渦巻上つて來るのです。數時間後には、それまでたゞ一面の水だつた場所に、島が出來上つてゐます。煙を吐いて火を吐いてゐる眞黒い塊ではありますが、まがふ方なき島です。これは大きな眞黒な硫黄岩の山で、いさゝかジブラルタル島に似た形をしてゐます。山腹と山頂からすつくと煙柱が立上り、周圍の海は湯氣を吐きながら湧返つてゐると云つた鹽梅です。

太平洋諸島の大多數は火山性のもので、東太平洋には小さな珊瑚虫のために出來上つた島が見られます。無數の小環礁や小島は珍らしくもありませんが、同じ珊瑚虫のために相當の



島が出来上つてゐるのです。その中でも大きい珊瑚島はグレート・バリアー・リーフで、満潮時には海面下に沈んでしまひます。グレート・バリアー・リーフは北オーストラリアの海岸に沿ふ數百哩の長さに延びてゐて、これは航海上の一大脅威となつてゐます。その珊瑚窟中にはクツク時代以來遭難した數十の船が幾多の貴重品と共に呑込まれてゐることです。その珊瑚は大部分白色ですが、中には赤、ピンク、濃いインディゴ、ヘリオトロープ、緑、黄等々があります。この大暗礁に沿ふて、所處に満潮時にも露出してゐる小さな島があつて、それは海鳥の棲家になつてゐます。よくくの用事のない限り、人間はこうした場所に近寄らないから海鳥の生活は平穩無事です。

X

珊瑚礁はまた海棲動物の樂園でもありません。儒艮や海龜はふんだんにゐますし、透明な海底には巨大な双貝類や眞珠貝もあるので、シーズンになると、冒險的な眞珠採取船が、たいいて日本人の採取人を載せて採取地域附近に投錨します。潜水技術は世界中で日本人の最も得意とする十八番です。さて船長の役目は片眼で潜水夫を片眼で天候をにらみ分けてゐるのです。

疾風がいつ襲つてくるかも分らないからです。だから船が疾風に見舞はれないうちに、大急ぎで潜水夫を引揚げて、沖の安全地帯まで逃げ出さなければならぬからです。

暗礁附近には、群をなしてゐる小さなむれざめから、四十呎以上に達する巨大なるばざめに至るまで、あらゆる種類の鮫類がゐます、ろばざめは時に妄想的な水夫等からは海蛇とさへ間違へられ勝ちです。この他しゆもくざめ、こおにざめ、ちざめ等居ますが、中で何と云つても怖いのは巨大な人喰鮫で、ホワイト・ポインターの名があり、土人達はこれを「餓鬼」と呼んで居るやうです。又とらざめがゐます。獐猛だからこの名があるやうに思はれますが、さうではなくて、褐色の虎縞があるためです。勿論こうした名前は學名ではないのですが、しかし絨氈鮫だの、叩き鮫だの「灰鼻」だの「餓鬼」だのと云つた方が、ラテン名前より、太平洋では通りのよい事萬々だからです。

X

太平洋と鯨!! 舊式捕鯨業がおしまひとなる日まで、太平洋はアメリカ捕鯨業者の主な漁場でした。南洋から持つて歸つたうづ高い記念品のコレクションは、すつかりマサチューセツツ州サ



ーレムのビーボディ海事博物館に陳列されてゐるが、これを一目見ると、ありし日のヤンキー捕鯨業者の達者さが分るやうです。

一年かそこいら海で暮らすと、捕鯨業者はのびくと陸をたのしむのです。そして埒もない装身具などゝ交換に、正直一圖のポリネシア人から、土民工藝のすばらしい逸品を捲上げる……。獨木舟、槍、盾、タバ布、飾玉、籠、太鼓、彫像、武器等と云つたものが、このテで國々へ持つて歸られたものです。

四十年代及び五十年代のニューイングランド人は、ボストンやグルセスター、ニューベツドフォード、ナンタケツトの波止場に、褐色の皮膚をしたポリネシア人を見かけたものです。それは多く捕鯨船に雇はれた土人達です。そしてナンタケツトには、その頃プシフイック・クラブと云ふものがあつて、これは捕鯨者しか出入出来ないクラブでした。此處は老船員たちが集つて、南洋の獲物を交換したり海事關係の雜誌を読み耽つたりすることの出来る場所でした。ポリネシア人は、兎に角すばらしい捕鯨士でメルヴィルの『クキークエグ』に血を通はせたやうなものです。立派な遜色のない體格、小舟を繰りながら、槍を投げる技術の妙、彼等は實にうつつつけの捕鯨士候補者だつた譯です。しかし海上生活ですぐ風邪をひいては、肺炎や結核

で死ぬ者が多かつたのです。肺結核はどういふものかポリネシア人の天刑でした。彼等はどん／＼これで死んで行くので、若しかするとあと一二世代も経たぬうち、純血のポリネシア人といふものはもう見られなくなるかもしれません。

x

はじめて彼等を訪れた者は、道徳心のまるでない無頼の水夫達でした。つきには有徳にすぎる西歐改良主義者たちで、單純な土人の胸に複雑な禮讓を無理矢理に詰め込んだものです。だから、裸装の乙女達は、微笑ましくしかも衛生的なバリウをかなり棄て、不似合な非衛生的な婦人用長衣を着るやうになり、又男子は洋袴と上衣で、そのたくましい裸形を隠してしまつたのです。虚装をかなり棄てた自然に近い姿、その裸體の生活がどうしていけないのか、ロンドンの是はカイロの非、或はワシントンの善は東京の惡、シカゴの正はパリの邪、等と文明はその國、その人の各立場によつて驚く程異つた獨自の見解を持つてゐます。それはさて置き、縹渺たる大洋と土人、海洋と島嶼、大自然が齎らした大太平洋の、自然科学的な秘められた寶庫が吾人の開拓を如何にまつことや切であるかを讀者に知つていたゞけると思ひます。



## B、近代史に現はれた太平洋

太平洋の近代史上最も大きな重要さを含んでゐるものに二つあります。と云ふのは、即ち日本の覺醒とパナマ運河の打通でありませう。

日本が僅々七十有餘年間の短日月に、封建鎖國の闇黒時代から、西歐文明に進展したと云ふ事實は、史上最大の興味ある現象の一つです。

がそれにも拘はらず、この事實は現在決してまだ充分に評價されてはゐないと云つてよい程です。思ふに、日本がその變革時代を通じて著るしく改良された點だけを見るだけでは充分ではないのです。たゞその大變動、大變革のみを知るならば、所謂それは認識不足と云ふものでせう。正鵠に言つてある意味では、日本は却つて改悪されたかも知れない處があるからです。日本は西歐の文明を採り入れるに餘りにも急で餘りにも不馴れであつた故に、美風を採用すると共に、屢々又惡風をも取り入れたからです。

これは私達の單なる經驗を俟つまでもなく、文化と美術に長ずる人種が、全然異つた他人種の文化を採用するとき、心ならずも不幸な過誤を冒すと云ふ場合は決して珍らしくないからで

あります。これは人類大小の歴史が明かに證明し、物語つてゐることなのですから。

無論日本は、長い間隔を置いて外國船の交通を迎へてはゐましたが、それにも拘はらずあらゆる意味で、歐羅巴人に對して門戸を閉ぢてゐたのです。これは『幕府』などといふ時の特殊國情がさうせしめたる重大原因と數へ上げることも出来ませう。

ですから全世界の好奇の眼は、あらゆる障礙に防げられて、この國の内部に就いては、又風習に就いては、全く充分知り得ることの出来た者は殆んど皆無でした。たま／＼マルコポーロの如き、その東洋見聞記に物語られたことを見ても、『東洋の神祕國、黄金にうづまつた國』等と云ふ程度に、荒唐無稽とはゆかぬまでも、非常にナンセンス味を加へられてこの東洋の『夢想郷』が傳へられたに過ぎなかつたものです。思へば、こんな事態があつた様に久しく續いたと云ふことは全く信じられない程です。

x

和蘭人は殆んど三世紀の間、日本と貿易を續けてはゐましたが、日本の舊時代の終焉が實際に告げ始められたのは一八四七年以後のことです。この年和蘭王は、日本貿易の制限を撤廢さ



せたら蘭領東印度植民地は、非常な利益を得ることを知つて、江戸の將軍へ、書籍若干と世界地圖一葉を添へて、鎖國策の拋棄を忠告して國書を送つたものです。

しかしこれに對しては何等の反響もなかつたので、さらに一八四九年に第二の國書を送つて米國艦隊が日本沿海に進まんとしてゐる。若し今日本が開國を肯んじなかつたら到底戦争は避け得られないであらうと急告した。しかしまだそれでも日本は、否幕府は動かなかつたので、遂にその言葉は事實化して、一八五三年に至つて、合衆國海軍提督ペリイは、四隻の艦隊を率ひ、浦賀灣にいよくその巨姿を現はしたものです。

この示威に接した當時の日本人の驚愕は異常なものであつたでせう。しかし米提督は大統領の親簡を手交したゞけで、浦賀灣に十日間滞在したのち日本を去つてしまひました。

これは、ペリイが、武力を使用する権限を與へられてはゐなかつたことによるもので、彼の使命は單に書簡を手交するに止まつてゐたからです。その爲翌春の再來を告げて去つたのです。けれどもこの時の米艦隊の訪問は効を奏して、日本人の態度は次第に變化しはじめました。持前の聰明さで以て、もうこれ以上西洋文明を徒らに拒否したところで無駄なことを知るや、一變して逆に西歐への關心と驚異の念とを、頗ぶる用心深い態度ではあつたが示すやうになつ

たのです。

こういふ風ですから、一八五四年の二月に、ペリイが再度日本を訪れたときは、實に物々しい十隻餘の戰艦も、實は殆んどその必要もない程だつたのです。

X

將軍は既に修好の條約を（これは相當制限的内容のものではありませんでしたが）アメリカとの間に調印する決意をきめてゐたのです。もちろん此の條約は、左程有利なものとは云へなかつたでせうが、何と云つても最初の手柄だつたものですから、當分の間アメリカは頗ぶる得意然たるものだつたのです。

將軍が同意したところの條項は、難破船員の救助（それと云ふのは、從來異邦人の難破船員は大層冷酷な待遇をうけたからです）、異邦船が日本諸港で薪水糧食石炭等を得ることの許可及び米國船が下田、函館兩港に寄港することの許可でありました。

するとこれに關係ある各國側でも黙つてはゐません。早速英國も和蘭も露國も、直ぐさま同一の要求を發してしかも相次いで日本の承諾を得ることが出來ました。けれど依然として外國



貿易だけは拒否された儘の變らざる状態を續けたものでありました。

けれど時勢の波は既にその扉を押し開きつゝあつたのです。その後事態は活潑な進展を見せました。即ち一八五六年には日本は、最初の米國公使である。タウセンド・ハリスを迎へたのです。機敏な彼は、時を移さず貴重な特權をその本國人の爲に獲得したものです。これによつて米國人は特定の場所に居住することをも許される筈だつたのですが、しかしこれは、例へば通商のやうな大問題の解決は、當時の日本の二重政府的組織の爲にどうしてもはか／＼しくゆかなかつたのです。

彼等及び彼等の歴史家の觀念に依れば、實に日本といふ國は特殊な國で、日本は一種の軍事的獨裁官たるシヨーンと、そしてミカド即ち皇帝とに依つて支配されてゐる國であつたのです。又彼等の解釋に従へば『前者の政廳は江戸に後者のそれは京都にあつた』のであります。ところでアメリカの強要に屈した者は將軍府で、一八五八年六月、幕府は、日米間の通商の爲にヨコハマ開港に遂に同意のカプトを脱いで興へたものです。もとよりこの事件はこれでおさまりません。いたく保守派を激昂せしめて、その結果數年間の國內鬭争を招致したやうなことがなりましたが、その間に處して、西歐列強も次第に確固たる各々の地歩と、一層の讓歩とを

着々獲得して行つたものです。

×

かくて、一八六六年に時の將軍は薨じて、慶喜公が後を受けましたが、實に彼こそはその最後の將軍たる運命に置かれたのです。しかし遠謀深慮の彼は、たゞちにその弟をパリに派遣して、泰西の儀禮を學ばしめ、みづからは、銳意陸軍を歐風に改め、海軍を新たに、建設することに努めました。故に日本の眞實の覺醒は、彼等が數へた西紀に従へば一八六六年を限度として以降だつたと云つても差支へないのです。

ついで『將軍府は廢棄され、ミカドは全權を收め、かくて惟神の日本本來の眞面目に立ち返つた』ものでありました。そして今や國を擧げて新しい風潮を迎へる傾向と變轉したのです。爾來日本の進展は實に驚くべきものがあり、一世紀にも満たぬ短期間に一舉に躍進し、しかも世界に遅れた數世紀を忽ちの裡にとり返した、この非凡な國民性の事實には、世界各國が驚異の眼を見張り、史上に於ける特筆的な大事項として稱讚するのも無理からぬことではありませう。



この間の内外共に多事多難の秋に當つて、明治維新の大業を完成遊ばされ給へる  
 明治天皇の御威徳の程を拜し奉り、國民たる者のひとしく感激恐懼能はざる次第であります  
 かくて封建鎖國の、中世紀的迷妄から、最も近代的な文明へ、古代日本の弓矢の状態から機  
 關銃の現代へ、しかも不斷に進んで退ぞくことを知らぬ、絢爛たる文化の新世界へと形成の導  
 火線を作つたものは、實にこの黒潮の香り高い海洋!! 太平洋でもあつたのです。

x

もう一つこゝに、太平洋史として、しかもその未來史に對してもさうであらう。パナマ運河  
 の影響の甚大さも、恐らく筆舌に盡され難いものがあらうと思はれます。

日本の開國についてこの運河の完成こそ、太平洋史上の最大事件と云はざるを得ません。合  
 衆國に對するこの運河の重要性は、恐らく英國に對するスエズ運河のそれにさへ匹敵すること  
 でせう。

——スエズ運河が一八六九に完成されて、この建設者が莫大な利益を見ることが明らかにさ  
 れたとき、フランスではパナマ地峽開鑿を目的とする。一會社が発企されました。この仕事こ

そ數世紀に亘つて夢想家の間に論議されて來たものだったのです。

スエズ運河の技師フェルチナンド・ド・レセツプスを社長とするこの新會社は、一八八〇年  
 に成立して、早速調査が始められました。そしてその工事期間は八ヶ年の豫定で、工費總額六  
 五・〇〇〇・〇〇〇フランと計上されました。かくてその工事は一八八九年まで續行された  
 のですが、惜しい哉、この年になつて、會社は經營方法に宜しきを得なかつた爲、まんまと破  
 産してしまひました。

そこで又、次々と新らしい會社が設立され、更に多額の金が、ひきつゞきこのパナマ地溝に  
 棄てられたものです。こうしてとゞのつまり合衆國政府が乗出すこととなつて、卓絶した方法  
 と立派な組織と無限の資金とを以て、フランス系統の諸會社の失敗のあとを引受けて、この事  
 業の繼續を敢行することとなつたものであります。

ところで、パナマ政府が安定しないので、兎角この交渉も長引いたのですが、一九〇四年に  
 なつて、合衆國政府は、四〇・〇〇〇・〇〇〇・〇〇〇弗を従前の工事に對して支拂ふことに話が纏つ  
 たものであります。そして爆藥、蒸汽シエベル等々が現場へ届き次第、開鑿工事は再開され  
 ることになりました。



しかし是等のこともさうなか／＼簡単に考へるやうにはゆきませんでした。といふのは、これ等の莫大な量に及ぶ機械や材料や、其他をこの運河地帯まで運んだり、また米人労働者の大群を輸送する前に、あらかじめ沼澤地を清掃してマラリヤ蚊を驅除したりするのに、約二年もかゝつたからです。

しかし間もなく、波止場や鐵道が建設され港灣が浚渫され、労働者のための工事場や、彼等の住宅が續々と建造新築されたりしました。

かくて、一九〇七年に、ルーズヴェルト大統領は、合衆國公務省のゲタールス大佐を總工事の長官に任命して、中十哩、長さ約五十哩に亘る全地帯に對する軍事、民政双方の權力を附與いたしました。こうして、この運河地帯は、以後永久に合衆國支配下に置かるべく、基礎づけられたものであります。

x

運河は、形式的にはかくて一九二〇年の七月一二日に、大統領ウイルソンによつて開通式を行はれましたが、實際上は、一九一四年の八月以來、既に運輸を開始してゐたものです。

その建設費は、パナマ共和國及び、フランス會社に對して支拂はれた金額を併せて、概算二四〇・〇〇〇・〇〇〇弗と云はれてゐますが、勿論それ位の値打のあることは掛け値のない處でせう。

先づ簡単に、軍事的見地のみから見ても、假りにハワイやフィリッピンを別問題としても、大西洋の海軍根據地から隔絶してゐる廣大な海岸線——カリフォルニア、オレゴン、ワシントン及びアラスカ——を所有する合衆國にとつては、この運河の重要性は云ふまでもなく至大なものであります。

このパナマ運河の使命たるや、北大西洋から北太平洋への交通を短縮して、従前滅多に船舶の通はなかつた方面へどし／＼船を送らせることになりす。故にこれは太平洋史上に於ける主役の確固たる地位は先づ動かし難しと云つてよいでせう。

x

又米國船が初めて支那の廣東港に入つたのは一七八四年（北米合衆國獨立の翌年）です。當時の米船はニューヨークから東へ大西洋を横ぎり、アフリカ南端を廻つて遠く廣東へ達したの



で。す一七八八年頃から米船は主として南大西洋の海獣の皮を支那へ賣込み、支那から茶、絹、陶器の類を買込んでゐます。その米船の中には南米の南端を廻つて、北米の西北海岸地方で採集した臘虎の毛皮を支那へ賣込む爲に、折々太平洋を往來したものもあります。

米國は又、深く阿片戦争の經過に注目し、南京條約成立を聞く間もなく、敏捷にも使節を支那へ送ることを決し、其使節カツシグは一八四四年七月、澳門郊外に於て、米清通商條約を結びました。その後米國の對支貿易は益々榮えて太平洋を常用航路として支那へ交通すると云ふ機運は一八四八年以後に開けたものであります。初め米人を太平洋へ誘ひ出したのは毛皮貿易でありましたが、それが一八二〇年頃から段々衰へて後には捕鯨業が米人を太平洋へ惹き附けて居たものです。捕鯨は主として鯨油の利益を目的とするものであり、その油は燈を得る爲に用ひられたのである。

北太平洋捕鯨の有望なことは、阿片戦争の少し前から知られて來たので、米露英佛諸國の捕鯨船が北太平洋に活動する事となつてから、その船が折々日本沿岸で難破したことがあるので、米國では捕鯨船を救護する必要上、日本の港を開かせたいと云ふ希望を持つものでした。

しかし捕鯨業より、もつと痛切に米人の太平洋に於ける活躍を促したものは支那貿易の發達

であり、米人は米國の産物、殊に木綿製品を東亞へ賣込む事に多大の望みをかけ、その對支貿易を發展させる必要から、遂に日本の開港を要求するやうになつたものです。

その際、米人をして從來よりももつと容易に太平洋へ進出し得た事情があります。それは即ち米國の領土が北米西岸へ臨むやうになつた事です。

X

北米合衆國が初めて獨立した一七八三年から太平洋沿岸のカリフォルニアは、メキシコ國の領土でしたが、一八四八年に至つて米國に奪はれたものです。と同時に、同地に於て砂金が發見されたので、所謂「ゴールド・ラッシュ」の波に乗る繁榮の港を形成するに至りました。

かうしてカリフォルニアが急に開けるにつれて、こゝから太平洋を直接裏切つて、支那へ往來すると云ふ事が考へられて來るのは、頗ぶる當然の成行であり、その往來の中途に横はる日本の港を開かせるのは、米國の對支貿易を盛んならしめるに付いて一層有利であると云ふ考へも勿論でありました。

汽船の燃料を補給する手段について、日本の最寄港に出入することが出来れば米船にとつて



は多大の便利を得るわけでもありません。かうして前述の如く、遂に日本との通商が結ばれ米國は本格的に太平洋へと進出して來たのであります。

### C、露國の太平洋進出史

阿片戦争以後、東亞細亞に於ける英國の利益と勢力とは次第に擴大されつゝありました。此形勢に對してすこぶる深い注意を拂つて居たのは北方の露國でした。露國が太平洋へ進出に忙しくなつたのも、英國の活躍に刺戟されたからであつて、阿片戦争後間もなく、露國の太平洋進出運動が著しく目立つて來たものです。

之より先、露人のシベリヤ探險が東へ東へと進められて、植民地的開拓が延びて行く間に、モスコワ政府はその探險と開拓との結果を整理して、確固たる國家的事業となすべく計畫を進めつゝあつたのです。しかし探險は政府の指導を實際待たずして東へ向ひ、その結果デンネフは一六四八年を以て亞細亞の東北端へ到達しました。かくて、ヤクーツクに政府の知事が置かれたのは一六四〇年のことであり、爾後、ヤクーツクはバイカル湖以東の東部シベリヤに於け

る露國の侵略策源地となつたものです。

x

露國のシベリヤ侵略が進捗するにつれて、東方への移住民に取つて必要な穀物は、最初の頃は露國內地から供給しなければなりません。その後西部シベリヤは次第に穀物の自給自足を得るまでになつて來ましたが、まだ東部シベリヤは西方から穀物の供給を仰ぐ不便を忍ばなければならなかつたのです。そこでこの不自由さから脱却すべく、黒龍江地方を手に入れて農作を試みやうと云ふ考へが起つて來たものです。こゝにハバロフと云ふ探險家が黒龍江畔に侵入し、アルパジン（雅克薩）に城を建てたのが一六五一年、又彼がなほ江を下つて探險を進めつゝある間に一六五二年、遂に清國の警備隊と衝突するに至りました。これが露支衝突の發端です。爾後色々の事件があつて、一六八九年に至つてネルチンスク條約に於て、黒龍江の上流アルグン河からヤプロノイ山脈に亘る線を以て國境となし、兩國人の通商を認める事となつたものです。



北滿洲から驅逐された露人は更に東方へ向つて探險を進め、一六九七年カムチャツカ半島に入り、別に又北氷洋から東へ海上探險を進めて、一七二八年にはベーリング海峡に達しました。その海峡を越えて露人は、對岸のアラスカに渡り、アラスカの探險に加へて北太平洋に於ける臘虎毛皮採集の有利な狀況に注目するやうになつたアラスカ開拓と北太平洋水産業の發展を計るために一七九九年ロシア、アメリカ會社と云ふものが設立されました。

次いでアラスカと露本國の海上交通を開くための探險が計畫されて、クルーセンステルンが二隻の船を率ひ、本國から大西洋を横ぎり南米を廻つて太平洋に入り一八〇四年カムチャツカに到着し、更に南に下つて同年九月我長崎港に入つたのです。これは文化元年の出來事です。レザノフも其の船に便乗して通商を我國に求めたのですが、許されなかつたので失望してカムチャツカに引返しました。その露船が北へ歸る途中、千島、樺太方面に示威運動を試みた事が我が國の注意を惹き、北邊の警備に就いての意見が次第に喧しくなつて來たのです。

其の後アラスカ開拓は、利益よりも經營費の方が多くかゝると云ふ狀況であつたので、露國

は望みをかけぬやうになり、一八六四年にロシア、アメリカ會社の經營期限が切れたのを幸にして露國政府は、一八六七年七百萬ドルでアラスカを合衆國に賣却してしまつたものです。しかしその様にして、露國の開拓事業が北太平洋へ擴められて來るにつれ、其開拓地方と本國の交通を容易にする手段が必要となつて來ました。それが爲には北滿洲の黒龍江の水路を利用するのが有利であるとされ、北太平洋沿岸地方との交通を容易にする爲種々と劃策されたものでありました。

## 米國の經濟的能力

天と地と人。この三幅對に米國は恵まれてゐます。平凡な言ひ方ですが、この三者、その一を缺いても今日の米國は出來上らなかつただらうと思はれる程です。

まづ第一は天の時です。建國の創業からして一塊りの植民群は、歐洲舊制度の來襲から擁護せられ、時も時、自由主義の勃興期であつたので、その自由の空氣の中に育てられたのです。過去百年はさうであり、最近までは歐洲大戰への参加は、米國に取つて最小の犠牲を拂ひ乍



ら最大の榮譽と富強をもたらしものに外ならなかつたと云へませう。

次は地の利です。「米國の過去における最も重要な地理的事實は、それがヨーロッパに對して大西洋岸に位することであり、又將來の歴史に於て特異の性質を與ふる地理的事實は、それが太平洋岸に位することである」と彼等が云ふのも宜なる哉です。

即ちこの兩大洋は外交軍事のみならず、經濟上においても攻守の立場を有利ならしめるのみならず、北はカナダ、南方は遠く南アメリカをモンロー主義下に服せしむる實力を持つてゐるのです。且つ地廣大にして物博、大陸の東西海岸に山脈はあるが、その間に大海洋々として流れ、大平原は凡ゆる産物を包蔵し、あらゆる主産力を無限に發揮するのです。

米國の富源については既に人の知るところですが、今その重要産物について見るに次の様です。先づ礦物からいへば、金銀は南阿聯邦やメキシコに及ばないが、銅は世界總産額百九十萬分の半分を産し、銑鐵は世界産額の九千八百萬トンの約半分を産するし、石炭は世界産額の十三億九千萬トンのこれ又半分を産してゐるのです。次に石油の如き現代の産業軍事上の重要原料においては世界産額の二億〇六百萬トンの約六割を産するし、鹽の如き食料品にして工業原料も二千八百萬トンの世界産額の中七百七十萬トンを産出してゐるのです。

x

次に食料品を擧げて見ると、米では遠くわが國には及ばないが、小麦では世界産額の一億五千七百萬キロの約五分の一を産出し、砂糖は甘蔗と甜菜糖もキューバやドイツに及ばないので、次に織物關係から云へば、棉花は世界産額の五百八十萬トンの中三百二十萬トンまでは米國の産出です。繭や羊毛にかけては、我國や濠洲に及ばないことは人の知る通りです。かように産物によつては、他國に譲るものもありますが、それは多く農産物であつて、現代工業の基礎的原料となり、國防軍事の基礎となつてゐる鐵、石炭、石油等の如きに至ては、世界産額の何分の一かを獨占してゐる有様であります。

それ等物質資源の豊富なものに加へて次は人間です。米國の人口の組織は黄人、白人、其他有色人の寄合世帯であり、各民族の亂合、状態にあつては或特性の難問題はあるにはあります。又信仰の自由を求めてはる／＼渡來した立派な精神は、日々に消え失せてゐますが、良く云へば、舊來の因襲に囚はれない青年自發の元氣に溢れてゐるのです。階級思想の陋習も従つて少いから禮に嫻はない野人の面影はあつても卑屈因循さは少いやうです。



その行爲が時として桁外れです。と云ふのは、非戦論で大統領になつたウイルソンが忽ちに  
して米國を戦争に引きずり込み、フーバー大統領は三十八億ドルの會社をこしらへて不景氣退  
治をやらうとして失敗したり、又滿鐵を獨占しやうとしたハリマンもあるといふ風に全くどこ  
となく間拔けたやうな、何をやるか判らない茶氣があります。これはたしかにアメリカの國力  
の馬鹿に出来ない所と云へば云へませう。こうした天地人の三者が比較的によく配合せられて  
ゐるところに、米國の絶對的の及び外國との比較の上での相對的の經濟能力があると思はれる  
のです。

米國の今日の富強は無論一朝の産物ではなく、植民地時代からの特殊文化といはゆる産業革  
命の齎らした生産技術の發展に外ならないので、その國力を觀るとも、たゞ單に物資の豊富  
な點だけに適當の重要さを置いてはいけないと思はれます。

要するに米國は、天の時もよし、地の利もよし、人の經濟的能力と經營力に於ても、大經濟  
的帝國を建設すべき要素を比較的多分に有してゐるといつてよいでせう。

x

「米國は鍍金された支那だ。若しアングロサクソン民族の紐帶を取り去つたなら——」

と或人が云つたが、誠にこれは面白い言葉であると思ひます。支那にとつては有難くない比  
較ですが、兎も角も世界で一番古い國の一つである支那を最近の列強米國の間に何か共通の點  
を見つけやうならば、國土の大と天産の博でありませう。國の廣さからいへば、面積一萬方キ  
ロの支那滿洲國を除いては七百八十萬方キロの米國本國のみより大分大きいし、人口ときては  
米國は一億三千七百萬ですが支那の四億何千萬かの人口には遠く及びません。面積と人口との  
比率においては、米國は支那に比べて遙かに稀薄です。しかし人間の生産力は遙かに支那を凌  
いで、今や名實共に常に好んで用ゐる「世界第一」の域に到達しつゝあるのです。

その發言は國際間に於ては宛も法律的拘束力を有するかの如く自惚れてゐる位であり、又過  
去百年に亘つて世界覇權を唱へた英國までが阿諛追從して付け上らすので、次第に自大野郎の  
好標本みたいとなつて來ました。

米國建國の精神に照して、それが果して米國自身に取つていゝか悪いかは、識者の大いに疑  
つてゐるところであります。兎に角米國は自分の力を自覺して來たやうです。過信の譏を或は  
免れないかも知れぬ。だが、自覺は大體に於て國力を意味してゐるのです。それが米國の強味



であると云へませう。

富源の優越、世界の金の半分百億圓に近い金の保有と、二百餘億ドルの對外債權、富の實踐的利用力。これに貫く青年客氣のアメリカ魂。人と物とを金絲のやうに一貫するプラグマチズム哲學、おのゝその反面、弱點短所を暴露すれば、數々あるでせう。しかし乍ら兎にも角にも、ソ聯に對するアメリカ帝國主義手段の實行はそれらの統一的一體だとも云へませう。

## 外交上に於ける米國

元來米國は、平和主義の國であるとも云ひ、又必ずしも武力抗争を躊躇する國ではないとも云ひますが、大體に於て米國は平和主義でやつてゆく國であらうと思はれます。夫は何故かと云ふに、米國の長所は弗であつて武力ではなく、従つて米國としても、武で争ふよりも弗で争ふのが賢明であるのです。併し乍らそれは米國の利益を無視しての話ではありません。ですから若し反對の方向に行くことがアメリカの利益だと判斷される時には、誰が反對に行かないと保證し得るでせうか。

故にアメリカは平和主義の國であると思つて日本が高斷をして居つて宜いかと云ふと、決してさうではありません。例の滿洲問題に就いて曾つて米國國務長官のステムソン氏が猛烈な態度で日本に抗議した事は既に周知の事實であります。同氏の考へでは、日本は生意氣な事を云つて居るが、米國が強硬な態度で向ふならば、必ず引込むに相違ないと思つたであらうと思ふのですが、しかし日本が少しも驚かなかつたのを見て大變思惑が違つたのではないかと思ふのです。若しその時に米國側の武力が優勢であつたならば、米國が果して平和的態度を持したであらうかは大いに疑はねばならぬと思ふのです。

茲に我等の注意を要することは、米國は歐洲に對しては同大陸の政争の渦中に投ぜざる事を以て傳統的國策とし、徹頭徹尾和平政策を維持して居ると思はれるのであります。事東洋に關する限りに於ては、必ずしもさうではないのであります。

現にワシントン會議に於て米國は、海軍力には英米の十に對して日本に六の比率を強要し、ロンドン會議に於てもやはり主要補助艦には日本に六の比率を強要しました。斯ういふのは本當に米國が平和主義を執つて居つたものとしたならば、武装解除の提議をなすべき筈でありませんが、彼はそれをしないのみならず、海軍に關して優勢な比率を求め、我國に取つては或は持



抗準備と見られるやうな遠洋作戦の看板を歴々と掲げ、戦闘艦型三萬五千噸のものを二萬五千噸にしやうといふ英國の提案には應じないばかりでなく、飛行機の母艦及び艦上の飛行裝備を廢止しやうといふ日本の主張に對しては反對を聲明してゐます。

さうかと云つて、米國が、機會があつたなら日本を叩いてやらうとして居るか云ふに、決してさうでもありません。彼はむしろ平和的であつて、其主要目的は經濟的發展であると思はれますが、彼は優越な武力を背景とし、所謂不戰勝利を得る事に、非常な努力を拂つて居る事は疑なき事實でありまして、日本としては其處に一考を要する何かあるのではなからうかと思はれる次第であります。

X

彼我の識者をして腹藏なく云はせますと、米國が常に東洋に於て武力の優越を得ようとする努力の甚だ誤れる事を指摘してゐます。其眞意は蓋し力を背景にして外交上有利な地位を占めようとする考であらう等と察するのは大變な間違であります。何となれば、我國では何時でも正義には屈するが、力の強壓には何時如何なる場合にも斷じて屈しません。従つて米國が若し

さう云ふ希望で軍備の優越を求めつゝあるとするならば、それこそ非常な無益であり、無駄費用であります。

惟ふに米國の最も關心する所は、支那に於ける商工業の發展です。支那の門戶開放の要求も亦實に此目的の爲であると信じられるのですが、日本は決して米國の此目的を阻害せんとするものではありません。若し日米關係に何かの故障を生ずると假定するならば、それは此點に關する米國側の疑惑に基くものであつて、米國に此疑惑の絶えない限り、海軍力の比率の争、外交上の無用の駆引等が、次から次へと起るのであるから、宜しく日本に對する疑惑を棄て、東洋に對すること尙歐洲に對するが如くに抗爭氣分を廢し、東洋の繁榮と平和の爲に努力する我國に信頼し、且つその成功の爲、協力を與へられる事が最も賢明であると思惟されるのであります。



## 大太平洋の海と空

### A、米國の太平洋進出

米國は從來も太平洋に集中した大海軍を、そのまゝ太平洋にとどめて置きましたが、最近また太平洋に於て長期の大演習を行つてゐる由をニュースは傳へてゐます。

何事に於ても所謂「世界一」的な横紙破りを以て全世界を睥睨する米國に取つて、世界が、又誰が如何なる眼つきをしようがそんなことに頓着するものではないでせう。米國大統領フーバー氏が、ルーズヴェルト氏に替つたところで、米國の對日本政策は殆んど寸分變化しないことを示してゐるやうです。しかしこれは米國の極東政策の根本義であり、太平洋覇權獲得の動かない方針でもありませう。

軍縮論を右手に翳しつゝ、左手には世界第一を以て誇る大海軍を、東太平洋の金門灣や眞珠軍港に磨き、濠々とあがる黒煙の影より十六インチ砲以下數百門の大砲は、仰角をかけて、何

時でも鯨波を蹴り、飛沫を立て、太平洋に驀進する準備が整つてゐるのです。

### B、米國海軍の現勢

米國が極東に注意の眼を向けたのは、前述のやうに既に百五十年もの昔からであります。米國海軍が東洋作戦を考へ出したのは、日露戦争後、日本がハリマンと滿鐵を賣らなかつた時からでありませう。ですから米國の滿洲に對する關心は決して新しいものではありません。

それは單に經濟的問題ばかりでなく米國では、滿洲を手に入れるものは極東を制し、極東を制するものは太平洋を制し、太平洋を制するものは世界を制するものと重視してゐたからです。米國の海軍政策もこゝに出發するもので、米國海軍はその國策と商業貿易を支援するとともに、米本土と海外領土とを防護することを目的としてゐるのです。これが爲には世界第一の海軍となし、大西洋では守勢作戦をとり、太平洋方面に於ては攻撃作戦をとる方針を定めてゐるのです。ですから米國海軍の特徴は航続力大なること、居住性完備すること、そのいづれも渡洋作戦に必要な條件です。しかし米國艦隊は太平洋作戦に重點を置き、ロンドン會議後は専ら對日關係を中心として艦隊の編成を新たにし、現在海軍力の九十パーセントを太平洋に集中



したりしました。

米國艦隊は、戰鬪部隊、索敵部隊、根據地部隊の四つに區分し、その艦數實に三百數十隻、日本の常備艦隊とはケタ違ひです。この外、マニラを根據地とするアジア艦隊、グワム警備として砲艦一と特務艦を配し、パナマ運河は警備のため、米國艦隊を備へてゐます。

### C、米國の太平洋領土

米國の海軍根據地は、戰略、政略、商略上より統制的に配置設備されてゐます。太平洋作戰の爲、米國戰略根據地北方ビュゼット、サウンドと南方のパナマを底とし、ハワイ眞珠軍港を頂天とする大三角形を描き、その底部に大小數多の根據地を備へる他、最前進根據地としてグワム、マニラを有し、更にアリユーション群島のウナラスカ、及びキスカ、南太平洋のサモアにも要港があつて、一朝有事の際は、ハワイを樞軸として翼をキスカ、サモアに張り、西太平洋を包む大陣形をとり得る構へとなつてゐるのです。現在戰略上の大根據地はサンフランシスコを中心にビュゼット・サウンドとサンチユゴを作戰根據地、ハワイを前進根據地として、計畫されてゐます。此の外太平洋方面にある小根據地は本土西岸にサンビドロ、アスリア、ポー

トエンゼルス、アラスカ方面にはシトア、セワードなどがあります。しかして太平洋作戰の本營は、サンフランシスコ、出動本陣はハワイです。

### D、海と空に伸びる米國

一九二二年頃から米國內で飛行機萬能論が擡頭しました。之は飛行機を大砲と見るといふ觀念から出發したもので、飛行機は非常に彈着距離の大きい大砲であり、而も其の彈丸は自力で空中を進行し舵を取り敵を發見して之にぶつ突かるといふ恐るべき大砲です。

明治三十八年五月二十七日には波爾的艦隊が白晝對馬水道を通過して日本海に進入しました。しかしこれは今日の艦隊が積んで居るところの爆撃機が十臺もあつたら恐らく、これ等艦隊も全滅させ得た事と思ひます。斯ういふ飛行機の時代になると、昔は價値がなかつた小島でも、飛行機が降りられるとそれは大きな島であると云つても差支へないと云はれます。これが空軍萬能論者の論旨なのです。

兎に角飛行機を以て空を制して居れば何でも出來るといふ譯で、ミツチエル少將といふのがさういふことを提唱しました。それが爲に全米に亘つて非常なセンセーションを捲起したものが



です。そこで大統領が非常に心配をして、モローといふ人を委員長としてモロー委員会といふものを作つて航空問題を非常に研究しました。

その結果陸軍は千八百機、海軍は千機の航空機を常備するといふ計畫が立てられ、これは既に完成しました。之と同時に海陸軍共別々に委員会を設けて航空問題を研究し、華府會議當時は主力艦と航空母艦は心配したけれども、實際巡洋艦には頭を悩まされなかつたのであるから、六割の比率も航空母艦と主力艦に適用したゞけで我慢したのであります。

この研究の結果、航空母艦といふものを骨子としたところの渡洋陳列といふものを作つて、航空機と水上艦隊との聯合作戦をやらなければならぬことになり、それには航空母艦は十分造らなければならぬ、華府會議で得た十三萬五千噸では足りないといふことになつて、倫敦會議で八萬三千噸の航空巡洋艦を造り、巡洋艦と行動を共に出来る小型高速航空母艦を造る権利を得たものです。彼等の遠謀深慮の程察するに餘りがありません。

しかし米國の對戦争とか云々と云ふ考へは國民全體の輿論となつてゐるといふ譯ではないと思ひますが、一度政府に立つて見ると、門戶開放主義を主張することは年來の國策である。政府當局にしても、門戶開放を支援する爲には是非共海軍が必要であります。

面白い事に、米國は指導者のやり方一つでどうでも動くといふことです。しかしこの點は頗る戒心に値するものがあるではないでせうか。

## 南洋群島の價值

南洋に廣く點在する我委任統治諸島は、海軍のために非常に重要なところではあります。

この島々には平和條約により、平和軍事設備は出来ませんが、軍艦の錨地もあり、殊に潜水艦のかくれ場所などにはおあつらへ向きです。こゝがフィリッピンに向ふ米國艦隊の通路に當るのでから、米國海軍にとつても無關心たり得ぬ譯のものでせう。

南洋群島は戰略的には勿論ですが、非常に經濟的價值があると思ひます。

そのうち最も重要なのは漁であります。鮪、鯷などは土佐の方面で捕れると考へられてゐますが、あれは素々熱帯の魚です。さうしてそれは南洋が根據地です。飛行機は波の高い所では降りられないのですが、南洋群島は珊瑚礁といふものがあつて、ぐるつと輪になつて居つて入る所が處々にあるのです。そして深さも丁度適當なのです。



遠洋漁業としては北洋漁業しか我國では考へて居らぬやうです。日×漁業あたりの人の話によれば、將來は南洋漁業であると云つてゐる位です。兎に角東西二千五百哩、南北千何百哩といふ漁場といふものに誰も入つて居ないのでから驚異的です。

次に南洋群島の間接的の價値ですが、先づ表南洋の代表的な物産を考へて見ると石油が出ます。砂糖が出る。麻が出る。鐵が出る。ことにこの鐵は約十億噸もあると推算されてゐるので、これは我國にとつて非常な好都合なことでありませう。況やニュー・ギニアには棉産地もあります。斯うなると、南洋群島の價値も非常に大きいと思はれます。

飛行機は大洋を渡る時には、どうしてもその前に安全といふことを考へます。旅客或は郵便物の航路などはどうしても南洋を通らなくてはなりません。濠洲へ行くにも一番近いし、若し南洋經由のエア・ラインが出来れば、歐洲から日本に僅かに十三四日で來ることが出來て非常に便利になります。

さういふ譯で、南洋は航空路としても有望な所です。斯ういふ所に經濟的の價値、戰略的の價値も十分にあるのです。而してこの南洋は、日本が世界戦争即ち聯合國の戦勝に寄與した爲にヴェルサイユ條約の結果、日本の委任統治といふことになつたものです。

### 極東問題と日米關係

茲に極東問題を繞つて、最も我等の注意を要することは、極東に於ける米國の態度が兎角日本に對して抗爭的であると噂されることであつて、日本が支那及び滿洲に於て何か爲さんとすれば、米國から反對を受けることを常として居るといふのです。殊にこの傾向は滿洲に於て顯著であつて、彼の爲すところは單なる經濟上の競争ではなく、實に政治的の抗爭であり、東洋に於ける我國の立場と相容れざる一種の干渉であるとさへ云はれることは輕視出來難いことでありませう。

例へばこれを前にしては大正三年（一九一四年）の日獨戦争及び大正四年（一九一五年）の日支條約問題の時の様に、又これを後にしては、先般の滿洲事件に於けるが如きは、その最も顯著なものでありませう。

察するにこれは、皆日本に對する米國側の非常な誤解によるものであつて（一）米國は日本が勢力を得れば支那及び滿洲の門戸が閉鎖せられ、米國の發展が阻止せられるであらうと云ふこと。又（二）日本が支那、殊に滿洲に於て特殊の利益を有するといふことは、門戸開放、機



會均等主義の本來の性質と一致しないからこれを認めることは米國の主張には反する。(三)  
日本は今後如何なることをするかも知れない。然かもこれを制止するには力に依る外ないから  
米國は常に優勢な武力の背景を以てこれに臨まねばならない。(四)米國は不戰條約及び九國  
條約を絶對的のものとして解し、其見地から滿蒙に於ける日本の行動を無條件に非難し、その結果  
の合法性を認めない……。

等と云つてゐる様ですが、是等は孰れも大變な間違であるのみならず、斯かる考は東洋平和  
の爲實に危険千萬と云はねばなりません。

x

日本は夙に門戶開放、機會均等主義を支持して居るのみならず、今後もこれを變更すべき必  
要がないでせう。何となれば、日本は世界の門戶解放を理想とするものであつて、常に東洋に  
於てのみならず、世界の如何なる部分に於てもこの理想の實現を期するものであります。

尤も日本は支那及び滿洲に於て、地理上並にその他の理由により、世界の強國との競争上極  
めて有利の立場にありますから、列國は實際上の門戶解放に依り多く利益をうけないかも知れ

ません。けれど米國に關しては日本と米國とは輸出品種に於ては大層相違して居るのでありま  
す。従つて商賣の分野も大にちがひますから、米國は何も心配するには及びません。尤も門戶

開放主義に支那の領土保全が伴つて居ることは日本も夙に承認してゐるところです。  
併しこれは貿易の自由を確保するため、支那の領土の現状を維持しやうとする以外の何もの  
でもないであつて、太平洋の彼方から、東洋の政治問題を監督しても良いといふ意味のもの  
でないことは云ふまでもありません。

x

日本が支那及び滿洲に於て特殊利益を有すると云ふことが門戶開放、機會均等主義の本來の  
性質と一致しないといふことは、誤謬の甚だしいものであると云へませう。何となれば、この  
主義は元來純然たる商工業の範圍に限られたものであつて、日本が持つてゐる特殊利益と云ふ  
ものは政治的性質を有するものであつて、この二つの間には何等矛盾も衝突もないからです。  
但しこの日本の利益は、歴史上、地理上並にその他の理由によるのであつて、現に米國自身  
も夙にモンロー主義名に於て南方の隣國メキシコ並に中米地方に對してこれと同一の理由で特



殊の利益を主張して居るのです。

尤も米國は一時石井ランシング協約に依り、日本に對してこの利益を承認しながら、後にこれを取消しましたが、こういふ利益は、日本が自然に有する實在の狀態であつて、米國がこれを承認すると否とに依り、變化するものではないのです。

然るに米國が自己の利害の打算から、これに横車を押さうとすることは不公平であるばかりでなく、その所謂利益の打算なるものも大に見當を誤つてゐる。何となれば、日本は日本の特殊地位を利用して支那及び滿蒙の利益を壟斷し、他國の商工業上の利益を犠牲にせんとするものではないからです。併し察するところ問題の困難は、そんなテクニカルなことではなく、米國がこの地境に對し、我國が歴史上並に地理上有する特殊の地位をよく認識しない點にあると思はれます。

## 大太平洋の將來

近來米國の極東外交が兎角神經質であつて正常の軌道を外れるかの嫌のあることは甚だ遺憾

に堪へない處です。勿論我等は敢て米國が平和の好愛者であることを否まんとするものではありません。否米國が過去に於て屢々世界平和の先達として活躍し、人類の福利の爲に貢献したことの極めて多大なるは我等の夙に認むるところです。

思ふに極東に對する米國の關心はその平和であり、支那の門戶解放機會均等の原則を維持することにあり得せう。併しその爲に米國が種々な妄想を描き、我日本に對して神經を惱ましつゝあるものとすれば、これは實に見當違の甚だしいものと云はねばなりません。

米國のかう云ふ態度こそ却て東洋の天地に風波を起し、その最も好愛する平和を擾亂することゝもなるやもしれません。何となれば日本に對する米國の非友誼的態度はその實支那の軍閥に對する不當の聲援となり、徒に彼等の暴慢心を増長せしめ、その禍亂を擴大する結果となるからです。

まづ米國が兩米大陸に對して米國のモンロー主義を主張せんとするならば、宜しく東洋に對しても東洋のモンロー主義を認めるが良いではないでせうか。東洋は、米國が遠く太平洋の彼岸から考へるよりも遙に我等の世界ではないでせうか。

我等は我等の世界の平和を慾すればこそ常にその擁護者を以て任じてゐます。現に今日まで



その平和が保たれて来たのも、實は日本の努力の功もあづかつて力がありません。

尤も外國には往々日本の行動を以て、或は侵略的なりなどと暴言非難をするものがあります。が、しかしかういふ非難ほど滑稽なものはありません。試に世界の地圖を披けて、日本の歴史を考査し、これを他の列國のそれと比較するとしませう。かと云つて、我等はこゝに、改めて歴史上既に著明な佛英露諸國の東洋侵略とか、または米國が建國以來僅百數十年の間に如何にして太平洋沿岸に進出し、パナマ運河地帯、布哇、グアム、フィリッピンを獲得したかを指摘せんとするものではありません。

併し、これを以て、日本が若しこれ等の諸國であつたならば、多分自己の所得とすべき管の滿洲を獲得せず、山東をさへもそのまゝ支那に還附した事實と比較すれば、諸外國の日本に對する幾多の非論呼はりは實におかしいものであります。

×

これを要するに極東の問題に關し、若し米國側にあつても何等かの不安があるものとすればそれは全然根據のない米國自身の疑心に原因するものであつて、米國が能く日本を理解し、そ

の眞意を知了したならば、直ちにすべての不安が單なる杞憂に過ぎないことを發見するであります。

何となれば彼我の國力の強弱は見様に依つて意見の相違がありますからこれを別といたしますが、太平洋を挟んだ地理上より見て、若し日米間に重大な問題が起るとすれば、それは結局米國側からであつて、日本側からでないことは前に述べた通りです。

例へば假りに日米の海軍力を均等とするも、その爲日本人の中に對戰爭を夢想するものは恐らくありますまい。

東亞を正視せよ!! 米國は宜しく東洋の實際を認識し、日本の立場を諒解し、商業上の競争以外、一切の對日抗争氣分を棄て、軍備優越權に關する謬想を改め、東洋の繁榮と平和の爲努力する我國に信頼することが結局米國自身の利益であり、同時に東洋平和の爲であることを理解すべきであります。

『逆巻く太平洋!!』されば永久に『波安かれ!! 太平洋』として世界人類に幸福と安寧とを齎らすに至るであります。

(完)



337  
858

滿蒙事報社編 定價五十錢 (送料五錢)  
**滿洲 官費 學校案内**

滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料三錢)  
小資本で**滿洲の職業**百五十  
出來る**種調**べ

滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料二錢)  
人を求むる新大陸は招く  
**滿洲の就職手引き**

滿蒙事報社編 定價二十錢 (送料二錢)

**蒙古の全貌**

謎の内蒙古  
秘境外蒙古

跋

爾來米國は太平洋を渡つて東洋に進出せんとする國策に力を注ぎ、米大陸に於てはモンロー主義を固執する一方、支那大陸に對しては門戶解放、機會均等主義を主張して、東洋發展を企てゝゐるので、それが爲歴代大統領は有力な海軍建造の必要を高唱された次第である。

又我國もこれ等の地方に於て、門戶開放政策と機會均等の主義を採り、太平洋を挾んで地理上の利益と共通して彼我の幸福を増進し得ると云ふことは、あづかつて兩國民の誠意と努力に由ることは勿論である。

由來日米兩國の立國の精神は、共に崇高なものである。我國は徳を六合にあまねからしめ、文武兩道をもつて國威を八祐に揮ふにある。米國は自由、平等を經とし、正義、人道を緯とし、人類の進歩向上を圖るを旨としてゐる。故に兩國の使命は決して相容れざるものではないのみか、ともに手を執つて、世界の文明に貢獻し得るものであることを我等は堅く信じて疑はぬものである。

太平洋に伸びる列強の耳目

〔定價 十錢〕

昭和十二年一月十八日印  
昭和十二年一月二十日發 行 刷

高 倉 晁 著

東京市芝區三田四國町二六

發行者 角 田 恒

東京市牛込區山吹町二ノ五八

印刷所 東亞書房印刷部

東京市芝區三田四國町二六

發行所 **東亞書房**

據替東京八八三八〇番  
電話 三田 三九八九番

鐵道各驛ホームスタンド一手販賣

鐵道保養會

Printed in Japan





京 東  
**房 書 亞 東**  
行 發